

表出する過渡期の痕跡

写真に見る

115年前の長崎

日露戦争時代

姫野 順一

□1□



ひめのじゅんいち
1977年九州大学院
経済学研究科博士課程修
了。博士(経済学)。ケ
ンブリッジ大クレア・ホ
ールライフメンバール。

専門は経済学史・知性史
・古写真を中心とする長
崎学。79年長崎大教養部
講師に着任。同助教授、
教授、環境科学部教授、
付属図書館長を経て20
16年長崎外国語大特任
教授。18年同大副学
長。著書に「J・A・ホ
ブスン人間福祉の経済
学」「龍馬が見た長崎―
古写真に見る幕末明治
の長崎」などがある。



世界遺産となった第3ドック

入り江を利用し崖を切り取り、前面の海を埋め立てて5年の歳月をかけて明治38(1905)年に完成した新設の大型第3ドック。対岸は波の平から古河町にかけてであるが、背後の景色は要塞地帯法に基づき雲状に消されている。竹の久保にあった要塞司令部は同36(03)年5月に大黒町に移転し、同39(06)年に平戸小屋に移転した。このドックはその後さらに拡張され今なお現役である。2015年に「明治日本の産業革命遺産」として世界遺産に登録された。

三菱造船所

日露戦争(1904-05年)時代の長崎を撮影した写真61枚を収載するアルバムが、秋田の古書店から発見された。豪華な装丁は東浜町の二枝べつ甲店の納品で黒と白のべつ甲細工が施されている。表装に「贈呈 荘田君 長崎市有志者」と刻まれている。明治39(06)年12月9日に三菱造船所長を退任した荘田平五郎に長崎市民が贈呈した

寄稿

記念品のようである。同様のべつ甲写真画帳が翌年長崎を訪問した皇太子嘉仁親王(後の大正天皇)に献上されているところからその価値が推し量れる。荘田は、このとき三菱では「管事」と呼ばれた社長に次ぐ地位にあった。臼杵藩の特待生として漢学から英学に進み、慶応義塾に学んだ。福沢諭吉に取り立てられて商学教

師となり、岩崎弥太郎のいとこ豊川良平の推薦で同8(1875)年三菱商會に入社した。同30(97)年に三菱合資会社三菱造船所の2代目所長に就任。長崎では労務管理制度の確立、原価計算の導入、自前の工業予備学校や病院の創設といった造船業の近代化と技術革新に取り組み、大型商船や軍艦を建造して長崎に雇用と繁栄をもたらした。キンビールの名付け親でもある。夫人の田村は岩崎弥太郎の姪である。写真は本石灰町の竹下写真館が納品している。写真師の竹下佳治は上野彦馬の門人で、焼き付け仕上げの名人といわれた。息子佳行と共同経営

拡張期の飽の浦工場

日清戦争が終わった明治29(1896)年、造船奨励法を契機に機械工場、組立工場、鉄機工場、網具製帆工場、鋳物工場、事務所の施設が拡充した。停泊している船舶は鉄製から変わった鋼製商船で、製品積込中のようなのである。この写真では背後の景色は消されていない。

アルバムに収められた貴重な写真のうち特に珍しいものについて、長崎外国語大の姫野順一・新長崎学研究センター長に紹介してもらいます。

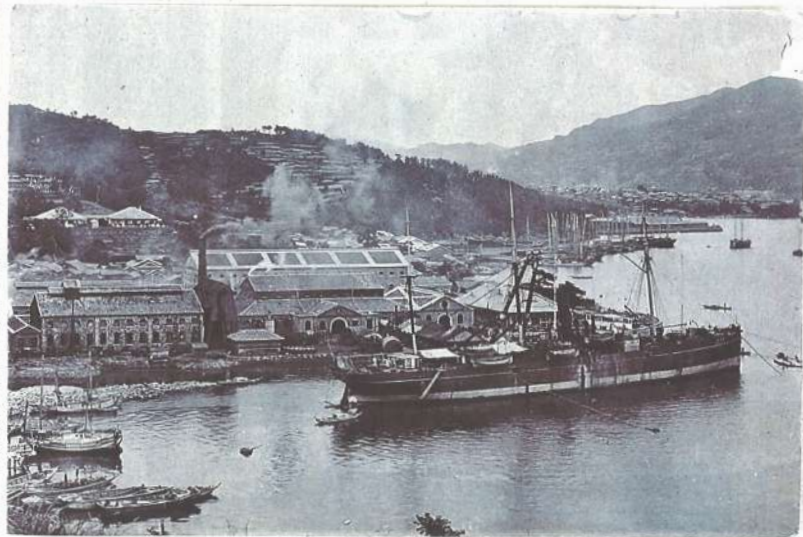
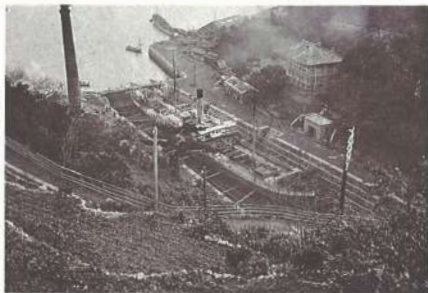
週一回掲載します

◇ (長崎外国語大・新長崎学研究センター長)

アルバムに収められた貴重な写真のうち特に珍しいものについて、長崎外国語大の姫野順一・新長崎学研究センター長に紹介してもらいます。

向島の第2ドック

造船の需要が拡大する明治29(1896)年11月に完成した。右の洋館は修理中の船員が宿泊するドックハウス。この建物はドックが廃止された昭和47(1972)年にグラバー園に寄贈されて今も健在である。



フランス人技師フロラン兄弟の指導で明治12(1879)年に完成した大型ドライドック。7000トンの艦船を入渠(にゆうきよ)できる東洋一の規模を誇った。同17(84)年に工部省から三菱の経営に移り同20(87)年に設備が壊れ下げられた。背後の景色はまだ消されていない。荘田はこのドックを拡張し、ヨーロッパ航路の開拓を目指す日本郵船が発注したわが国最初の大型客船常陸丸6000トンの建造に取り組んだ。



立神の第1ドックと修理中の外国船

写真はすべて長崎外国語大所蔵